

FORD EXPLORER SPORT TRAC



空荷でも気分はアメリカ西海岸

アウトドア派のクルマと言えば、SUVやキャンピングカー、そしてミニバンが相場でしたよね。でもアメリカではこれがスタンダード。そう、ピックアップトラックです。398万円という戦略的な価格にもそそられます！

TEXT/AKIRA TAKEI [竹井あきら]

PHOTO/TAKAYOSHI MATSUMOTO [松本高好]

ピックアップトラックはいつだって、アメリカの広大な大地に降り注ぐピッカピカの太陽光をまとい、こっちは方面めっぽう造詣が浅いんだけど、漠然と、しかし鮮烈にそんな印象が刷り込まれていて、夏っぽさに目を細めてしまう。いっぽうでその夏っぽさは、底抜けにノー天気なおバカっぽさともイメージが重なっていて、だからこのエクスポローラー・スポーツトラックのまともさにはちょっと驚いてしまった。

走行感覚と後席に拍手

こちら日本ではじゅうぶん重量級だけど、本国アメリカではライトSUVの正統派として名高い、エクスポローラーをベースとしたピックアップ版がこのスポーツトラック。さらっと流してしまっただが、エクスポローラーをベースにるところがキモで、トラック的粗野なところがないのがすごい。屈強なラダーフレームを採用するも、サスペンションはちゃんと4輪独立懸架を採って、乗用らしいふるまいをみせてくれる。

その足回りはエクスポローラーより硬めにセッティングされているということだが、乗り心地はトラック的なものではなく、空荷で走ってもゴトゴ

トしたり突き上げがキツイなんてことは全然ない。むしろハンドリングがシャキッと走りやすいくらいだ。搭載される、エクスポローラー「XLT」と同じ213ps/5100rpmと35.1mkg/3700rpmを発生する4リッターV6 SOHCエンジンは十二分にパワフルで、組み合わせられる5段ATもまたクレバー。2230kgの車重をもとめず、独立フレームの恩恵もあってか大仰な騒音や振動とも無縁に、ごく自然に走る。対する制動力もまた、大径のディスクブレーキのおかげで、きちんと走れる以上にきちんと止まってくれる。予想以上に、大人っぽくスマートな走りなのであった。

ホイールベースは425mm、全長で440mm、ベースとなるエクスポローラーより長い、内輪差にちょっと気を配ってやるくらいの気遣いの上乗せでじゅうぶん。前方の見切りのよさにも助けられ、大物ゆえの運転のしづらさはたいして感じない。走行中の安定感と、とくに後席の快適な広さを思えば、ホイールベースの延長はいいことばかりだ。

そう、この後席には拍手。ダブルキャブの後席なんてしょせんベラベラのシートに直立した背





もたれで窮屈、もっぱら手荷物置き場で、人を乗せるのはエマージェンシー、そんな認識は星一徹のちゃぶ台返し並に覆される。ゆったりとした足元のスペースに、ふっくらたっぷりとしたシート。シートバックもきちんと厚みがあって、ゆったりとした角度もある。家族を乗せなきゃいけないお父さんも堂々と手が出せるクルマなのうれしいじゃないですか。

上質感もありながら、頼りがいのあるゴツさも表現したインテリアは守られてる感じが濃厚。きっとアメリカのキビしい風土に育てられたであろうこの「守られ感」、たとえば悪天候で撤収を余儀なくされたキャンプのときとか、めっちゃめっちゃ頼りがいがあるだろうなあ。キャンピングの床はラバー素材でドロドロでも気が引けないし、こんな心強い後ろ盾があれば、うっかり大自然に飛び込んで行けそうな気がする。

泥も海水もドーンと来い!

さてスポーツトラックの本題、荷台である。荷台のことはベッドと呼ぶそう。知らなかったけどなんかかっこよさげなので私も今日から訳知り顔でそう呼ばせてもらう。えー、このベッドのパネルにはSMC(シート・モールディング・コン

パウンド)と呼ばれる、防水性/耐腐食性に優れた素材が使用され、見て触れてみるだに頑丈で、泥も海水もどんと来いという風体である。しかし無骨なばかりでもなく、床下収納よろしく、排水用のドレンプラグまで用意された大小3

つの一体形成型ボックスもしつらえられていて、収納にうるさいママも納得の気配り上手。

雨、風、盗人から荷物を守ってくれるハードトノーカバーが標準設定されているのもうれしい。このカバーのハードっぷりを実際目にする、ピックアップはかっこいいけど荷物むき出しじゃな……って心配はご無用でことになる。めっちゃめっちゃ厚くてハード。しっかり鍵もかかる。ただし重たくて作業位置も高いので、小柄女子(私)には開閉作業はハードすぎた。前後に2分割されたカバーを片方だけ持ち上げるのが精一杯。全面を持ち上げて取り外すとすると絶対無理というレベルにハード。オプションでいいのでガタイのいい男子、欲をいえば見目麗しいのをひとり付けてくれるとうれしいんですが、別のいい方をすれば、このクルマに乗った細身のかわいい女子を見かけたら、その背

後にぜーったいこのクルマくらいゴツイカレがいるぞ、気をつけろっ!

まあそのへんの事情をクリアすれば、もうバンバン遊びまくるしかない。サーフィン、ウインド、ダイビングにシーカヤック。とりあえず海水のまんま積みちゃって、後でジャバジャバ洗えるベッドってすごい。一回海に入っちゃってからポイント移動するなんて時の気分がグッと軽くなる。つまりはいい思いする確率が上がる。泥んこのダウンヒルライダーも、漁港でざっと道具を洗おうと思ったら海水の蛇口しか見つからない上にきれいにしてきたつもりなのにコマセ臭(いわゆるコマスメル)に悩まされてる釣り師のみなさんも、さあごいっしょに。しかも友だちや家族も気分よくドライブできるんだもの、ああ夢のよう。

ベッドに夢を載せて

だけどそんなにまともな使い方はやっぱりじゃなくて、MTVのカスタマイズ番組「PIMP MY RIDE」ばりにおバカなこともしたいところ。番組ではピックアップのベッドに卓球台やピンボールマシンを作っちゃって「クールだろ」っていつたりしたけど(ってアホな!)、このスポーツトラックならリッチな風体を生かしつつ、ニッポンらしさもアレンジしたいところ。ベッドをジャグジーにしてどこでも露天風呂とか、畳敷きにして風炉を置いて移動茶室とか、ああ、なんか夢が広がる。そんな夢をしつつ、空っぽのベッドに楽しい気分だけを満載して走るのも、またおつなもの。

FORD EXPLORER SPORT TRAC



搭載されるパワーユニットはエクスペローラー XLTと同じ4.6 V6SOHC(213ps・35.1mkg)。5段ATを介して4輪を駆動する。全長5370×全幅1870×全高1840mm。インテリアはカジュアルすぎることなく適度な高級感を醸す。さらに、後席にも充分な空間が用意されている。まっすぐ走っている限り、トラックに乗っていることを忘れてしまうかもしれない。ただし、ホイールベースが3315mmもあるから狭い路地などでは内輪差に注意が必要。ハードトノーカバーは標準装備となる。新車価格:398万円。

